

ダブル連結トラックの道内初走行について

共に北海道の未来を創る
第9期北海道総合開発計画



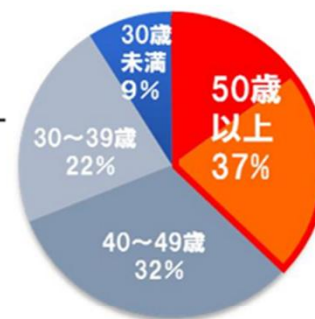
北海道開発局ホームページへはこちらから。

ダブル連結トラックの概要

現状：トラック輸送は、深刻なドライバー不足が進行（約4割が50歳以上）



■ 特車許可基準を緩和し、**1台で通常の大型トラック2台分の輸送が可能**な「**ダブル連結トラック**」の導入を図り、トラック輸送の省人化を促進



現在 通常の大型トラック



約12m

今後 **ダブル連結トラック：1台で2台分の輸送が可能**



特車許可基準の車両長を緩和
（現行の21mから最大で25mへの緩和）



25mダブル連結トラック

平成31年1月29日より新東名を中心に本格導入

ダブル連結トラックの実験結果概要(省人化・環境負荷低減効果)

○同じ重量を輸送する場合、通常的大型トラックに比べ21m超車両は、ドライバー数が約5割の削減となり省人化効果が発現し、燃料消費量・CO2排出量も約4割削減。

■車両諸元

＜大型トラック(12m車両)＞



＜ダブル連結トラック(21m車両)＞

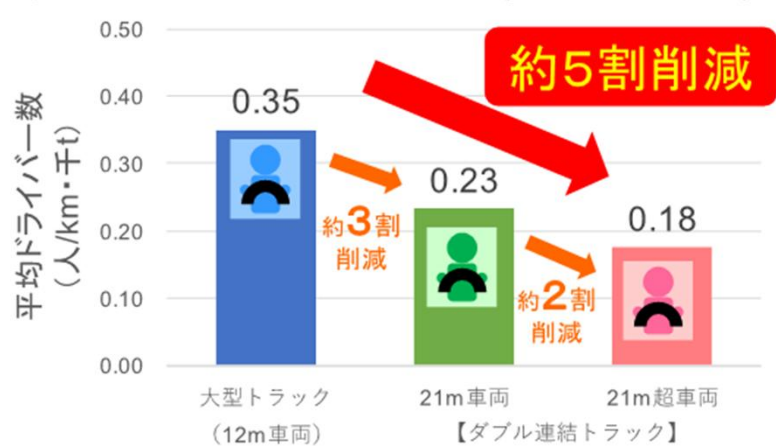


＜ダブル連結トラック(21m超車両)＞

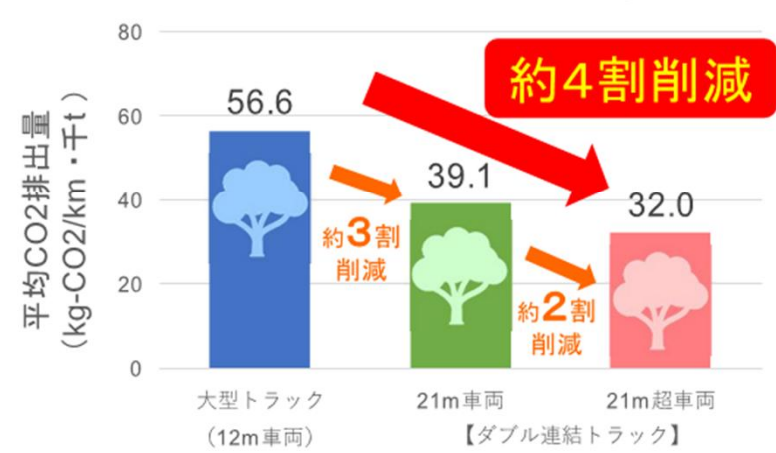


車両諸元	大型トラック	21m車両	21m超車両
長さ (m)	11.98	20.98	24.98
高さ (m)	3.78	3.78	3.78
幅 (m)	2.49	2.49	2.49
最大積載量 (t)	13	24.1	25.9
対象車両	大型トラック	21m車両	21m超車両
平均輸送量	10.9t	16.8t	22.0t
千t・kmあたりの必要ドライバー数	0.35人	0.23人	0.18人
千t・kmあたりのCO2排出量	56.6kg-CO2	39.1kg-CO2	32.0kg-CO2
千t・kmあたりの燃料消費量	21.6L	14.9L	12.2L

■省人化(千t・kmあたりの必要ドライバー数)

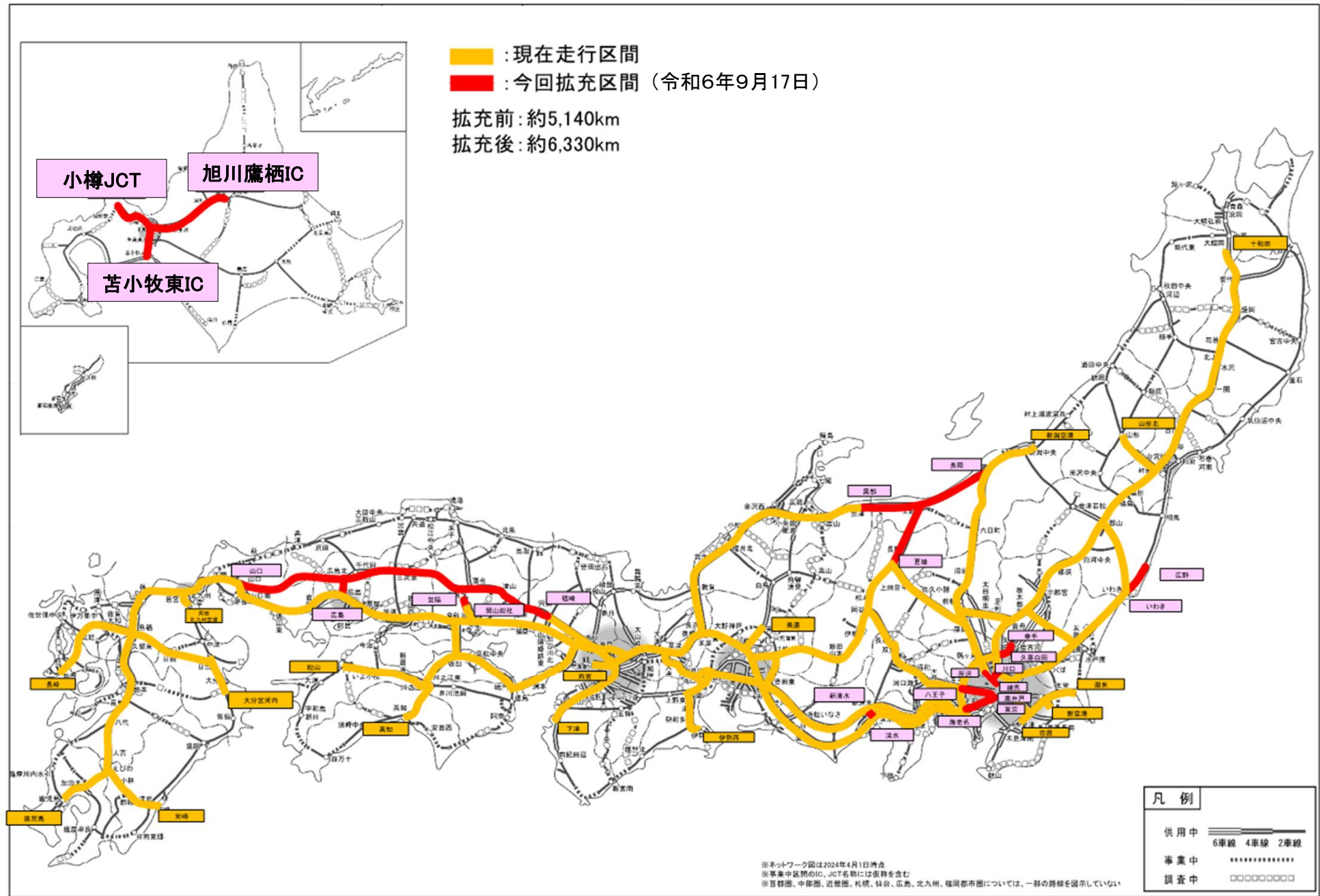


■CO2削減効果(千t・kmあたりの排出量)



出典: 福山通運(株)乗務記録表 (H29.10月～H30.7月)
ヤマト運輸(株)乗務記録表 (H29.11月～H30.7月)
日本梱包輸送倉庫(株)業務記録表 (H30.2月～H30.7月)
西濃運輸(株)業務記録表 (H30.4月～H30.7月)

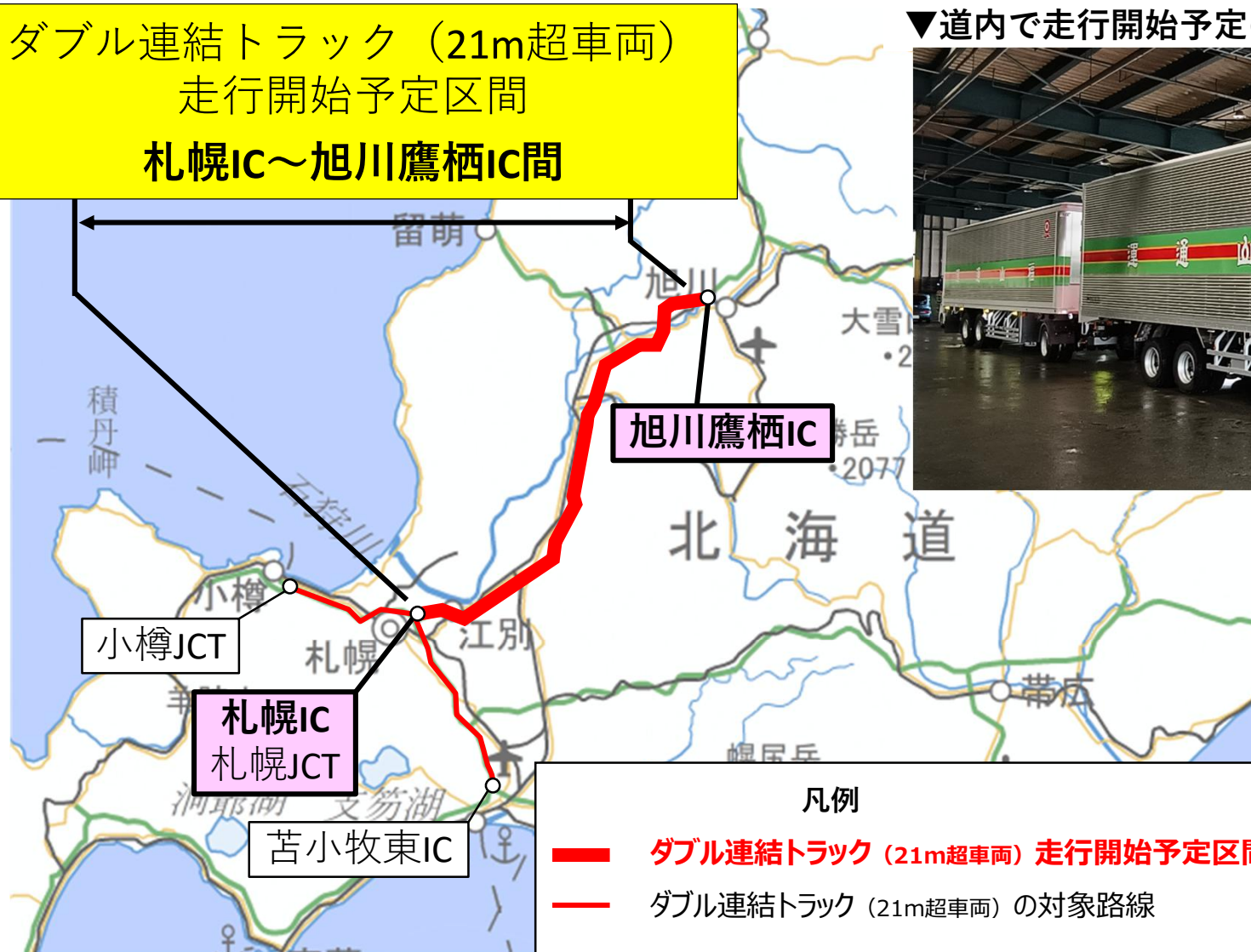
令和6年度に拡充した通行区間(全国)



道内で走行開始予定の区間

○11月時点で2社からの申請を受け付けており(1社には21日に許可証発行済み。もう1社は審査中)、今後、札幌IC～旭川鷹栖IC間において、**道内で初めてダブル連結トラック(21m超車両)が走行開始予定。**

ダブル連結トラック (21m超車両)
走行開始予定区間
札幌IC～旭川鷹栖IC間



▼道内で走行開始予定のダブル連結トラック (21m超車両)

